

飲水思源

町長

松岡市郎

先人の教えと東日本大震災の教え

東日本大震災の被災地には、先人からの教えとして「地震が来たら山へ逃げろ」とか「ここより下には家を建てるべからず」などの言葉が過去の経験から言い伝えられているという。

自然災害の中でも、台風、豪雨、豪雪は気象庁予報によってある程度事前に対策を講じておくことが可能になっている。しかし地震や火山噴火などは1日前に予報が出て事前の備えをした、という話など聞いたことはない。現時点で予測は困難。だからいつ起きても迅速に対応できるように備えが必要であり、備えの一つに先人の経験からの教えが言葉として残っているのだろう。今回の地震と津波という大震災で、この教えにより何人の人々が救われたのであろうか。経験による教えは最良の教師、最良の予防対策でもある。

私たちの町には上水道がなく、台風災害により停電が発生して水の供給が断たれることがある。停電に備えて「台風の前には風呂とタンクに水を貯める」、避難時には「電気のブレーカーを落としてストーブの電源は消せ」というくらいは災害予防策として伝えておくことが必要だと改めて感じる。

今回の大震災で被災され、避難や復興に向けて困難に耐え、辛い環境の中で頑張っている地元住民の姿がテレビで放送されている。

「辛い」という文字は「幸い」に似ている。どこが違うのかとよく見ると「一」があるかないかである。つまり「辛い」に「一」が加わることで「幸せ」という文字に代わる。ではその「一」とはなんだろうと考えてみた。

「一日一日」「精一杯」「一生懸命」の「一」であるような気がする。「辛い環境の中で、一日一日、精一杯、一生懸命に頑張ることが幸せになる」ことだと漢字は説いているようだ。

「おいしい水、うまい空気、豊かな大地」のありがたさ。先人が残してくれた素晴らしい郷土は幸せの源であることを今回の災害が教えてくれている。この幸せな環境から「一」を失わない町づくりを住民挙げて展開しなければならぬ。

「水、空気、大地など、どれ一つが欠けても」の「一」である。日常、当たり前のものが当たり前に存在していることが幸せの原点なのである。素晴らしい自慢の郷土を一人ひとりの努力で守り、失いたくないものである。

文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



ナイト&デイ
(映画、DVD)
20世紀FOX

平凡な女性「ジェーン」は、空港で出会った素敵な男性「ロイ」に胸をときめかせる。しかしミステリアスなロイの背後には巨大な陰謀の影が…。恋の予感は一瞬にして怒とうのパニックと嵐のような大事件に。予想不能で危険なロイと行動をともにすることだけがジェーンに残された生きのびる唯一の方法だった! (110分)



セイヨウオオマルハナバチを追え
(児童書)
著/鷺谷いづみ 刊/童心社

人の行為によって本来の生息域外にもたらされ、生態系に大きな影響をもたらす外来種。なかでも「セイヨウオオマルハナバチ」は東川町でも多くみられます。なぜこのハチが問題を起こすのか、どんな生態をしているのかななどを分かりやすく解説しています。東川町の防除活動、慰霊祭の様子も紹介しています。



警視庁FC
(一般書)
著/今野敏 刊/毎日新聞社

警視庁地域部地域課総務課の「楠木」が言い渡された特命「警視庁FC」は、映画やドラマの撮影に対してさまざまな便宜を図るのが任務。「危険な目に遭いたくない。刑事なんてまっぴら」という楠木にとって、安全で簡単な仕事とも思われた。ところが警備についた撮影現場で謎の変死体が見つかる。そこには警察組織を巻き込んだ壮大な企てがあった。